

男子看護学生の卒業率の推定

著者	西 基
雑誌名	北海道医療大学看護福祉学部学会誌
巻	10
号	1
ページ	3-7
発行年	2014-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00010381/

[原 著]

男子看護学生の卒業率の推定

西 基

北海道医療大学看護福祉学部看護学科生命基礎科学講座

要 旨

看護学を学ぶ男子学生は、しばしば学生生活上の困難を経験することから、「政府統計の窓口」に公表されている資料を元に、最近数年間の大学・短期大学3年課程・看護師3年課程それぞれにおいて、入学者がストレートで卒業する割合などを、男女別に推定した。いずれにおいても、卒業生およびストレートで卒業した者における男子学生の割合は有意に少なく、卒業延期者や前年度卒業延期者においては、男子学生の割合は有意に多かった。男子学生のストレート卒業率は、大学で87.1%、短期大学3年課程では79.3%、看護師3年課程では77.7%で、いずれも女子学生より有意に低かった。男子学生に対しては、教員や職員の様々な支援が必要であると考えられた。

キーワード

看護学校、政府統計の窓口、卒業、男子。

緒言

男性と女性の労働や社会における役割の平等化を目指して、1985年には男女雇用機会均等法が、1999年には男女共同参画社会基本法がそれぞれ制定されたが、この流れを受けて保健師助産師看護師法も改正され、2002年3月からは性別に関係なく「看護師」との名称が用いられるようになった。このような社会改革の効果もあって、従来、女性がほとんどであった看護の場において、男性看護師が活躍する場面は拡大しつつあり、各種の学校において看護学を学ぶ男性は従来よりは多くなっている。

ところが、現在に至るまで、大学においても専門学校においても、看護学生の大部分は女性であって、男性の看護学生（以下、男子学生）は、そのような中で、他の学科や学部などでは見られないような困難な状況に置かれていることが少なくなく¹⁻³⁾、そのことが学業を完遂し得ない事態を招く場合すら見受けられる。

本論文においては、政府が公表している資料から、大学・短期大学3年課程・看護師3年課程の3種類の養成所において、4年間または3年間で卒業する割合などを男女別に検討した。

資料および方法

インターネット上の「政府統計の窓口」の中の「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

<連絡先>

西 基

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学看護福祉学部看護学科生命基礎科学講座

TEL：0133-23-1211 内線 3642

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001102798>によった。ここには2007年度から2012年度までの資料がエクセルの形式で示されている。このため今回の計算はすべてエクセルにより行った。この資料のうち、「入学者数」「卒業者数」「卒業延期者数」「前年度卒業延期者数」の数字を使用し、「大学」、「短期大学3年課程」および「看護師3年課程」について検討した。

この資料において、「2012年度」の卒業として表示されているのは、調査が4月から6月にかけて行われ、かつ「2012年度の資料」として2012年11月14日に公表されていることから、2012年3月に卒業した者のことである。「2008年度」の入学として表示されているのは、同様の理由により、2008年4月に入学した者のことである。

大学については、例えば2012年度に卒業した者に対しては、2008年度の入学者数と2010年度の編入入学数を合計した数を、短期大学3年課程および看護師3年課程については、例えば2012年度卒業に対しては2009年度の入学者数を、それぞれ対応させた。また、元の資料には、総数と男子の数が示されているので、女子の数はこれらの差とした。

大学では4年間で、短期大学3年課程および看護師3年課程では3年で卒業（ストレート卒業）した者の、当初の入学者数における割合を求め、これをストレートで卒業した数の、入学者数に対する割合とした。

例えば、2012年度の前年度卒業延期者数と2011年度の卒業延期者数との差は、2011年度の卒業延期者のうち、2012年度に卒業した者の数を表している。短期大学3年課程の、2011年度の卒業延期者数は201人、2012年度の前年度卒業延期者数は166人であったから、こ

の差の35人は2012年度に卒業したと見なした（現実には、この35人の中には、退学した者がいる可能性があるが、その数はそれほど多いとは考えられないため、今回は無視した）。この数を2012年度の卒業生数1947人から差し引いたものを、ストレートで卒業した人数（1912人）とした。この値を2008年度入学者数2261人で割った84.6%を、2008年度に短期大学3年課程に入学した者がストレートで卒業した割合（ストレート卒業率）とした。

このようにして算出した数字を、大学では2011・2012年度の2年間の卒業につき、短期大学3年課程および看護師3年課程では、2010・2011・2012年度の3年間の卒業につき、それぞれ通算した。 χ^2 検定を使用して、男女の差を検討した。

結果

1. 男女を合わせた全体の中で男子学生が占める割合を指標とする検討

表1・2・3に大学・短期大学3年課程・看護師3年課程の結果をそれぞれ示す。入学時に男子学生の占める割合は、それぞれ10.2%、9.6%、12.0%であった。もし、男女の間において、卒業までに差が生じなかったとすれば、卒業生、卒業延期者、前年度卒業延期者、卒業延期から次年度に卒業した者の中において男子学生が占める割合は、入学時と同じとなるはずである。例えば、表1の「大学」において、入学者に占

める男子の割合は10.2%であったから、その1行下にある卒業生数の総数27509に、10.2%を掛けて得られる2793.2が男子の期待値となる。実際の卒業生数は2622であったから、期待値と実測値を使用して、 χ^2 検定を行うと、 χ^2 値は10.5となる。他の項目についても、また、短期大学3年課程・看護師3年課程についても同様の計算を行ったが、いずれの養成所においても、卒業生およびストレートで卒業した者における男子学生の割合は有意に少なく、卒業延期者、前年度卒業延期者および卒業延期から次年度に卒業した者においては、男子学生の割合は有意に多かった（すべて $P<0.01$ ）。

2. ストレート卒業率

次に、男子・女子それぞれの中においてストレート卒業率を算出したところ、男子学生のストレート卒業率は、大学では87.1%であったが、短期大学3年課程では79.3%、看護師3年課程では77.7%と、8割を切っていた。これに対し、女子学生は、大学・短期大学3年課程・看護師3年課程の順にストレート卒業率は低下したものの、いずれも9割前後の数字であった。男子学生より差は小さかった。いずれの学校においても、男子学生のストレート卒業率は、女子学生より有意に低かった（すべて $P<0.01$ ）。

表1. 2011～2012年度卒業の通算結果，大学

	総数	男子	女子	男子の割合 (%)
2007～2008年度入学者数+2009～2010年度編入入学者数	29280	2973	26307	10.2
2011～2012年度卒業生数	27509	2622	24887	9.5 -*
2010～2011年度卒業延期者数	1544	348	1196	22.5 +*
2011～2012年度前年度卒業延期者数	1441	315	1126	21.9 +*
2010～2011年度卒業延期から2011～2012年度に卒業した者の数	103	33	70	32.0 +*
2011～2012年度卒業生のうち4年で卒業した者の数	27406	2589	24817	9.4 -*
2007～2008年度入学者数に占める割合 (%)	93.6	87.1	94.3 -*	

+* : $P<0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に多い

-* : $P<0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に少ない

表2. 2010～2012年度卒業の通算結果，短期大学3年課程。

	総数	男子	女子	男子の割合 (%)
2007～2009年度入学者数	6528	629	5899	9.6
2010～2012年度卒業生数	5768	512	5256	8.9 -*
2009～2011年度卒業延期者数	512	84	428	16.4 +*
2010～2012年度前年度卒業延期者数	450	71	379	15.8 +*
2009～2011年度卒業延期から2010～2012年度に卒業した者の数	62	13	49	21.0 +*
2010～2012年度卒業生のうち3年で卒業した者の数	5706	499	5207	8.7 -*
2007～2009年度入学者数に占める割合 (%)	87.4	79.3	88.3 -*	

+* : $P<0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に多い

-* : $P<0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に少ない

表 3. 2010～2012年度卒業の通算結果, 看護師 3 年課程.

	総数	男子	女子	男子の割合 (%)
2007～2009年度入学者数	70477	8480	61997	12.0
2010～2012年度卒業者数	61286	6726	54560	11.0 -*
2009～2011年度卒業延期者数	5708	1045	4663	18.3 +*
2010～2012年度前年度卒業延期者数	5101	912	4189	17.9 +*
2009～2011年度卒業延期から2010～2012年度に卒業した者の数	607	133	474	21.9 +*
2010～2012年度卒業生のうち 3 年で卒業した者の数	60679	6593	54086	10.9 -*
2007～2009年度入学者数に占める割合 (%)	86.1	77.7	87.2 -*	

+* : $P < 0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に多い-* : $P < 0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に少ない

3. 2007～2012年度入学者の年齢分布

表 4 に2007～2012年度入学者の年齢分布を示す. 大学・短期大学 3 年課程・看護師 3 年課程いずれにおいても, 男子学生は20歳代および30歳代が有意に多かった.

考察

この方法には, 最終学年以前に留年した者の数が考慮されていないが, 元となった資料からは, この数字を推定できない (各年の在学者数の数字があれば, 各年の入学者数は掲載されているため, 推定は可能であるが, この数字もない). 従って, 実際のストレート卒業率は, 今回の方法で算出した数字より数%低いと考えられる.

大学において, 編入生単独の卒業数が示されていないため, 今回は一般入学生と編入生を合計したが, 入学した編入生は1837人であって, 全体の約 6 % しかないため, 比較的留年や退学が比較的少ないと考えられる編入生が, 今回の結果に及ぼす影響は小さいと考えられる.

今回の検討は, 男女を合わせた全体の中で男子学生が占める割合についてのもの (横断的な検討) と, 入学した男子・女子それぞれの集団のどれほどがストレートで卒業したか (コホート調査的な検討), の 2 つの方向で行ったが, いずれの検討においても, 男子学生が女子学生より進級や卒業が遅れがちであること

が示された.

松田ら⁴⁾は, 男子看護学生の経験として, 「女子学生との交流に困惑する」「常に寂しさや孤独感を感じる」「女子学生とは異なる配慮や待遇を受ける」など, ネガティブな経験が少なくないことを指摘している. また, 飯高・多喜田¹⁾は, 8 名の男子学生に対し面接を行って, 男子学生は「少人数のために肩身が狭いと感じた」「演習や実習では性差を意識する場面が多く…不安や葛藤を体験した」と報告している. この研究の対象となった 8 名の男子学生は大学の 4 年生であったから, それまでに退学などを経験せずに 4 年まで進級できた, いわば「それまでの淘汰の試練に耐えて生き残った」者であるため, 精神的に強い者のみが選択されたというバイアスが存在すると思われる. にも拘わらず, 相当な困難を感じているという結果が得られたことから, 当初入学してきた男子学生の集団全体として考えると, つまり「淘汰の試練に耐えられなかった」者までを含む集団として考えると, 大多数の男子学生が入学後に大きな困難を感じるものと判断される. 実際, 百田⁵⁾は, 自身の経験として, 「男子学生のために…さまざまな配慮をさせていただいたと思います. しかしながら私は, 相変わらず看護には興味を持って…成績は散々でした」と述べている. その後, 百田は, 卒業研究への取り組みや指導教官からの後押しなどを通じて積極的姿勢に転換した, と述べているが, 実際には, 男子学生においては, 姿勢を積極的な

表 4. 2007～2012年度入学者の年齢分布 (%).

		20歳未満	20～29歳	30～39歳	40歳以上	計
男子	大学	88.0 -*	10.1 +*	1.6 +*	0.3	100
	短期大学 3 年課程	72.2 -*	21.0 +*	5.8 +*	1.1 +*	100
	看護師 3 年課程	56.4 -*	32.0 +*	10.9 +*	0.7 -*	100
女子	大学	95.8	3.3	0.7	0.2	100
	短期大学 3 年課程	90.0	7.0	2.4	0.7	100
	看護師 3 年課程	77.3	14.7	7.0	1.0	100

+* : $P < 0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に多い-* : $P < 0.01$, χ^2 検定, 男子が有意に少ない

ものへ逆転させることは容易ではないであろう。

大学・短期大学3年課程・看護師3年課程のストレート率を見ると、特に男子学生ではこの順に低下が著しかった。これが何に起因するのかは今回の研究では明らかにできない。例えば、入学者の年齢分布は、3つの養成所いずれにおいても男子が「高齢」であったが、このことがストレート卒業率にどれほど寄与するのかを推定することは、限られたデータの中では不可能であった。男子の20歳未満の率は、3種類の養成所の間で最大約32ポイント、女子では最大約18ポイントも差があるが、ストレート卒業率の差は男子で最大約10ポイント、女子で約7ポイントであって、少なくとも年齢分布の違いがダイレクトにストレート卒業率の差に反映されてはいない。20～30歳代の学生が多くなると、彼らの中に連帯意識が生まれ、かえって精神的には好都合な状態となる可能性も考えられる。

堤・河村⁶⁾は、大学と専門学校の男子学生に調査を行った結果を報告しており、「授業・演習での女子学生との協力に困難が伴わない」とした割合は、大学で92.3%だったのに対し、専門学校では87.5%と低く、専門学校の男子学生がより困難を感じている結果となっていた。また、「他の男子学生とよくコミュニケーションを取っている」とした割合は大学で100%だったのに対し、専門学校では62.5%と低く、かつこれはかなり大きな差と考えられる。

ところが、飯高・多喜田¹⁾の調査の対象は大学生、豊嶋ら²⁾および高橋ら³⁾の対象は専門学校生であったが、これらの報告を見る限り、男子学生が感じる困難については、大学も専門学校も、例えば「女子学生が多いため居場所がないと感じる」ことなど、両者の間に本質的な差は見出せない。また、短期大学3年課程と看護師3年課程とは同じ修業年限であるにも拘わらず、両者の間にも差があったことから、修業年限はあまり関係していないと考えられる。さらに、入学時の男子学生の割合は、看護師3年課程が、3者の中では最高の12%であって、男子の「マイノリティ」の程度は最も弱いことになることから、「同学年における男子学生の割合」が大きく関係しているとは言えない。従って、今回、大学・短期大学3年課程・看護師3年課程の間において、ストレート卒業率に差を生じたことは、学校の支援態勢などの差に基づいている可能性もある。ストレート卒業を阻害する要因が何であろうと、看護学科の男子学生に対しては、教員や職員の強力な支援が必要であると考えられた。

文献

- 1) 飯高直也, 多喜田恵子. 男子看護学生が大学生活で遭遇する困難な経験. 日本看護学会論文集. 精神看護 2011; 41: 155-158.
- 2) 豊嶋三枝子, 半田直子, 南雲美代子, 沼澤さとみ,

寺島美紀子, 高橋直美. 看護専門学校における男子看護学生の学生生活上の困難とメリット. 日本看護学会論文集. 看護教育2013; 43: 110-113.

- 3) 高橋順子, 高野みち子, 雑賀美智子. 女子看護学生との比較からとらえる男子看護学生が感じている学習上の困難. 四国大学紀要2010; (A) 33: 161-168.
- 4) 松田安弘, 亀岡智美, 山下暢子, 鈴木美和, 野本百合子, 舟島なをみ. 看護における性の異なる少数者の経験. 看護研究 2004; 37(3): 253-262.
- 5) 百田武司. 男性看護師に期待される役割は変わったか. 看護教育 2011; 52(4): 279-283.
- 6) 堤かおり, 河村圭子. 男子看護学生が抱える女子看護学生間におけるストレス. 日本看護学教育学会誌 2007; 17: 247.

受付: 2013年11月1日

受理: 2014年3月6日

Estimation of graduation rates of male students from nursing schools

Motoi Nishi

Department of Fundamental Health Sciences
Health Sciences University of Hokkaido

Summary

It is said that male students in a nursing school have various difficulties on leading their school life. Using the data on the internet published by the Japanese Government, graduation rates of male students from 3 kinds of nursing school (university, junior college of 3-year course, and vocational school of 3-year course). In all of these schools, rates of male students within graduates and within those who graduated in 3 (or 4) years were significantly low. Rates of male students within those who could not graduate and within those who could not graduate in the previous year were significantly high. 87.1% of male students graduated from a university in 4 years, 79.3%, from a junior college in 3 years, and 77.7% from a vocation school in 3 years. All of these rates were significantly lower than those of female students. Various supports to male students from professors and staffs are necessary.

Key words : graduation, governmental data, male, nursing school.